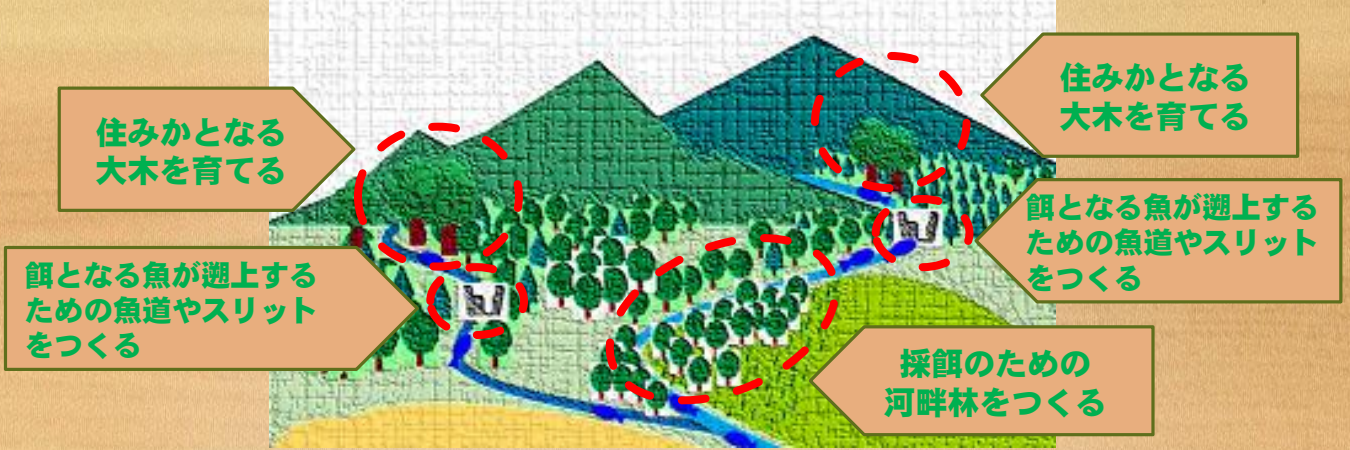


「シマフクロウの森」の再生のイメージ

樹洞のある大木が育ち、川に魚が登る豊かな森



シマフクロウの個体数を回復するためには、ねぐら・営巣地として利用する大木の「洞（うろ）」、その大木の育成や、魚が遡上できるように、魚道・スリットの設置や直線化された河川を旧河川の流れに還元するなど、河川環境の改善などが必要です。

シマフクロウが巣として利用できるほどの大木が育つには300年かかるといわれております。

再び、全道広域にシマフクロウがすめるようになるためには、50年、100年、300年先を見据え、国、道、市町村、民間団体、企業などが連携した息の長い取組が必要です。

シマフクロウは、その種を保護することで他の生物も守られるアンブレラ種であり、豊かな生物多様性のシンボルであることから、長い時間をかけても、「シマフクロウの森」の再生をすることが、生物多様性の保全を図ることにつながります。

アンブレラ種



「人間は？」

人間は右の生態系ピラミッドのどこに位置しているでしょうか？

いまや自然に大きな影響を与える人間は、どのようなことに心がければよいでしょうか？